

<p>第14号 (6月号) 2014年6月1日</p>	<p>七里ヶ丘こども若者支援研究所 <b>それが社会参加だ！</b></p>	<p>住所：鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12 携帯：090-7212-4055 Email：qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長：新舛秀浩 発行責任者：滝田衛</p>
-------------------------------------	--	--

## 編集長に！？不安と期待の混沌！



番外編 連載 **すぐそこにあること** 新舛秀浩33歳

編集長になりました新舛秀浩ですと書きたいのですが、迷いが生じている。研究所が開設して1年、2回の講演会で話したり連載なんて大層なことを引き受けたりして何とかこなせているのですが、編集長となると結構重荷です。大勢の前で話し連載の文章を書くことには比較的苦にならないのだけど、月に3回も編集会議に参加できるのか(あ、重度のひきこもりだったので2年前はあるNPOの人に訪問してもらっていましたから)まずそれが心配。今もおひきこもっているのでもネットで買い物したり、女の子とコミュニケーションをとったり遊び道具にしかPCを使ってこなかったのでもPCに疎い。それでもせつかくの機会というか年齢的にも最後のチャンス？という感じなので頑張るしかないと思って1年間なんとか踏ん張っていきと思っています。しかし一方で慣れれば案外いけるのではとか、やってやれないことはないとか、いやこのようなボランティア活動で終わりたいくない、むしろこの経験をステップにして次の仕事につなげたいという思いも同時にある。こんな不安が大きく少しばかりの期待、編集長なんて僕に仕事を下さったことは嬉しい反面僕に任せて大丈夫か！と思うのだが……。まー、なるようになりますよね。

## 「こどもも大人ものびのび」こども若者応援団副団長 永野亜由美さん

「こども若者応援団」副団長を務めさせて頂くことになりました永野亜由美です。本職は市内で公共図書館システムを開発している会社で営業システムエンジニアをしており、時間がある時や休日にボランティアで、市役所の障がい者支援ともしびショップマリンのWEB担当、横須賀米軍基地内のイベント通訳スタッフ、また街づくりに積極的であるNPO法人横須賀創造空間の会員でもあります。



私は表に立って頑張るといより、頑張りたい、表に出たい人を縁の下で支えて応援したい側なので、何かお手伝いできたらと思い、こども若者応援団に参加させていただきました。 ※裏面へ続く

### コラム風

集団的自衛権の怪しい風が吹く。坊ちゃん首相は積極的平和主義と言うが、消極的戦争主義と読み替えられる。「やられたらやり返せ」の集団的自衛権は暴風と理解する。先の戦争で武力的外交手腕に行き詰まった大日本帝国の道を、再び日本国憲法を踏み潰して歩もうとしている、実に暴風。僕たちの安全と安心の能力が問われている。自然災害からは身を守る備えをするが、人的災害は改善も回避も出来る。今からでも遅くない、爽やかな風を吹かせたいと願うのは、こども若者に世代継承する大人の役割だと痛感する。

日本国憲法前文に「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」とある。僕はこの下線部、アジアへの公正と信頼を約束した日本を誇りとしている。江戸時代末期、植民地化を恐れた日本は不平等条約を受け入れ、欧米帝国主義に習い大日本帝国を築いた。結果、欧米からのアジア解放と言いながら、アジアを植民地化した。朝鮮半島併合では姓名を奪う創氏改名、強制連行徴用・従軍慰安婦等の悪政を強いた。そして敗戦、300万人(アジアは1000万人)以上の命を奪った。領土は4島等に縮小、国土と政治経済等の権力は占領された。この総括の上に、僕たち69歳未満の大人は戦争経験(世界は紛争・戦争の連続だが)なくすごせてきた。この貴重な平和風をこども若者に継承し吹かせたい。(滝田衛)

(1面より続く) 大学留学時代はコミュニケーション学を専攻しており、人間関係で必ず生じる「ノイズ」をどうやってスムーズに克服していくか、どうすればより良い人間関係を築くことができるのか等を心理学と共に学びました。これらの知識や経験を踏まえた上で、今のことも若者に向けて適切なメッセージを届け、成功へのワンプッシュのお手伝いがすぐにできるか、と自分に問いかけると現状のことも若者問題は大学の授業のようなマニュアル通りではすぐに解決することは不可能でしょう。その当人の問題が解決されたからすべての問題が完結というわけではないからです。その当人のまわりにある「環境」も「ノイズ」の一環だからなのです。人間関係における「ノイズ」の例を挙げると、自己の性格・体調、家庭・学校・職場環境におけるストレスなど沢山ありキリがありません。こういったストレスによって社会進出し難いことも若者が沢山いるはずで。

悩みに悩んでいることも若者たちが自由に、のびのびと過ごせる社会環境づくりを私はお手伝いして築きあげることができたらと切望しております。不登校やひきこもりのことも若者たちといったナイーブな部分も含め、みんなが満足できる、納得できる社会へ進出するには「環境」をチェンジしなければならないと私は考えております。

**子ども若者支援研究所ホームページ(HP)**できました。

友人の永野亜由美さん(子ども若者応援団副団長)に傑作を頂きました、感謝。ご覧ください。

<http://shichirigaoka-childsupport-lab.jimdo.com/>

5月25日 **子ども若者応援団会議** **生きる、生き方を巡って** (滝田)

下町がお祭りでにぎわう午後2時、14人が集まりました。(1名会場に迷って不参加…案内不足スイマセン) 団長小幡(諏訪小教育ボランティア報告)・副団長永野(おばあ様のご逝去、合掌)さんの司会進行、副団長新舩さんの突込み質問10連発で2時間が有意義に終了。県議の安川さんは6月議会への意欲を、龍崎さんは“大人の文化祭”紹介、“種や”宮坂さんは温泉旅行のお土産を(ゴチ!)、涌井さんは東京での八百屋修行に一区切り(富士ヘツーリング)、川辺さんは大学2年ワンクルー修了試験にホット…、青山(久里浜の学童)さんが交流で初参加、息子さんらの成長に一喜一憂は川辺(順子)さん、仕事に一区切りそして青少年指導に充実の高島さん、子育て&学習支援に励む山本さん等など。



その後は研修会と講演会イベント協議、年間の流れは「発達障害研修(7月)→子育て交流(9月)→若者の生き方研修(12月)→多様な生き方交流(3月)」でおおむね決定。若者の“就労”を巡って、不登校・ひきこもり・精神障害等の生き方に注目する島根さんの発言で、教育・学歴や資格を巡り活発な論議ができました。終了後はあちこちに交流の輪ができ、終了とはなかなか…。では次回6月15日(日)に! **5月15現在:52会員**

**それぞれの風のコーナー**○若者たちに会って、自分を責める力と反省する力が2分割されていることに気づく。「面接を受けて就職経験がないこと以外完璧だった」とOさんは報告するが、合格できない。Pさんは「僕は頭が悪い。親に依存し自立できない」と語るが、未来に目を向ける。ほぼ同じ世代の2人、ベクトルの向きが反対である感じを受ける。Oさんは自信が、Pさんには反省がある。そんな時Qさんと話し、会話がつかなく通訳。「Qさんの言いたいことは……ですよね」と。そうだ、誰でも打てば響く会話出来るわけではない。繰り返したり、想像したり、言い換えたりして会話を紡いでいくのだ。そうか! コミュニケーション、言葉のキャッチボールは繰り返し想像し言いかえて紡ぐのだ。対人関係に緊張し経験に不安があれば、言葉のキャッチボールは成立し難いのは当たり前。Oさん、自分を振り返り、面接官の気持ちを想像しながら、自分らしく。fight。

相談は10時~16時でお願いします。訪問もご相談を(土日も)。応援団会議は横須賀市市民活動サポートセンター午後2時~4時、ご参加くださいね。	<b>6月の開所日程</b> (駐車場あります。) ※研修会は7月延期です			
	2日(月)	相談不可(講演会)	16日(月)	相談
	5日(木)	相談	19日(木)	相談
	9日(月)	相談予約済	23日(月)	相談予約済
	12日(木)	相談	26日(木)	相談
	15日(日)	応援団会議14時~	30日(月)	相談